

## 国宝松江城慶祝 松江高校 7 期東京同窓会

平成 27 年 11 月 15 日

報告 松江高校 31 年卒業 7 期 吉田昭寿

昨年10月6日、台風18号の直撃を受け、3時間遅らせて日比谷松本楼で開いた松高7期満喜寿東京同窓会、予定より大幅減の参加者となりましたが、それでも、風雨について、交通混雑のなか、26名の参加者がありました。

今年はそのリベンジ、折からの松江城国宝指定を受け、松江城国宝指定を祝って開かれた松高7期東京同窓会は、前回と同じ日比谷松本楼で10月4日正午から開かれました。

参加者は32名、見事リベンジを果たしました。

まず会場のシンボルである松江城と同じ年齢、樹齢400年の首賭けの大銀杏の前で全員撮影、

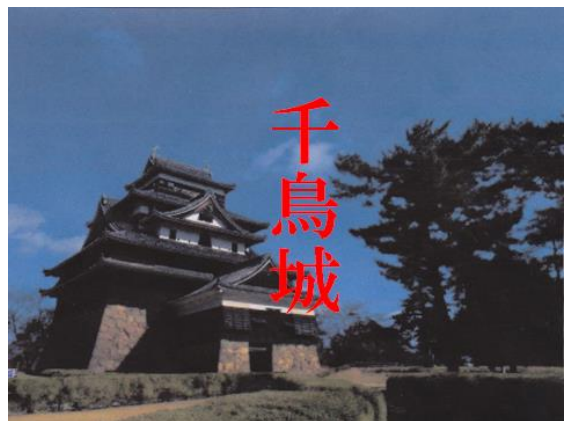


会は、前回の会以来になくなられた級友への追悼から始まりました。この1年に5名の級友をうしなしました。

ついで、乾杯、懇談へと移りました。

しばしの懇談のあと、松江、米子、大阪、吹田、大津、小牧から駆け付けた遠来の友人が紹介されました。

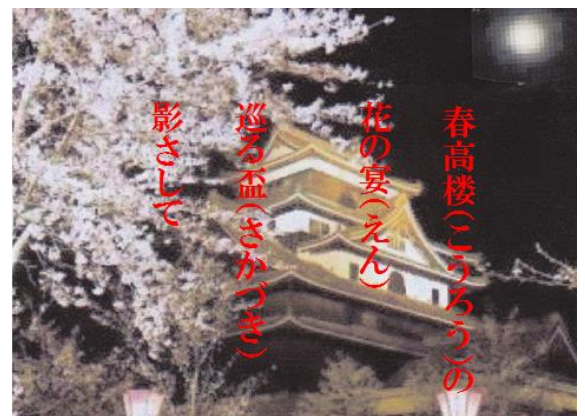
これから本番、松江城国宝を祝う行事です。



まず、松江からの友人により松江城国宝への道が、詳細に、啓発的な資料とともに、語られました。

越前府中を領有していた堀尾吉晴、吉晴から浜松城を譲られていた息子忠氏親子は、関ヶ原の戦い後、1600年、出雲、隠岐の二国、あわせて25万石の領国を与えられ、毛利氏が居城としていた月山富田城に入城します。

二人は、現在の安来市にあった富田城は大勢の家臣、町人が集まる地として狭いと感じ、宍道湖畔乃木村の元山、



今の床几山に坐し、新たな城地の選定を始めます。

この城地の選定中、1604年忠氏は、急死します。

吉晴は、忠氏の意見に従って、宍道湖東岸亀田山を新たな築城の地と定めます。

忠氏の遺児6歳、のちの忠晴を後見し、築城と城下町の建設を5年で完成させます。しかし、吉晴は城の完成の直前死亡します。



吉晴公の銅像は、大手門前に設置されてありますが、それは、松高17期の彫刻家西村文夫氏によって作成され、2013年6月除幕式が行われました。



忠晴は、家臣団に支えられ、領内の開発整備を進め、一方、大坂冬の陣、など幕府の公役も果たします。しかし、跡取りのないまま、忠晴は1633年、35歳の若さで死亡します。

断絶した堀尾氏に代わって、若狭小浜から京極忠高が出雲、隠岐26万4200石を拝領し、入城します。



忠高の父は、徳川秀忠の正室小督の姉初を妻とし、近江八幡、大津を経て若狭小浜、越前敦賀の11万8000石を領していましたが急死し、忠高が跡を継いだものです。

このころの領主は、急死、夭折が多いですね、

ちなみに、出雲、隠岐二国は、もともと、守護京極氏の領していたものを、戦国時代の習いで、下克上により、守護代尼子氏に奪われたもの、先祖のうらみをはらしたということでしょうか、

忠高は、その後、石見銀山、邇摩、邑智4万石をあたえられ、歴代松江藩主三氏のうち最大の藩主となります。



大阪城外堀の埋め立てで発揮した得意の土木工事を駆使し、斐伊川、伯太川の大土手若狭土手を作り、新田開発を進めます。

城下の建設も、内中原、雑賀町の形成を目指しながらも、3年余の短い治世で、跡取りなく断絶、あとは、信濃松本城7万石から18万6000石の松江藩をあたえられた松平直政に引き継がれます。

直政は、徳川家康の二男、秀忠の兄、結城秀康の三男です。

大阪城夏の陣、冬の陣で戦功があり、上総姉ヶ崎1万石を与えられ、大名となります。越前大野、信濃松本と移封加増をかさね、松江藩で国持大名となります。

松江城本丸に安来出身の彫刻家、米原雲海による彫刻、直政が大阪城攻めにさっそうと馬に乗って出陣する直政公初陣の像がありましたが、戦中の金属供出により失われたのは残念なことです。今では、県庁前に倉澤實氏の直政公像があります。

松江松平家の統治は、間に茶人不昧公7代治郷を輩出しながら、10代定安が、明治維新、1869(明治2年)年の版籍奉還により、松江藩知事となるまでつづきます。

今の当主は15代、前東京松江会会長の松平直寿氏で、都内で健在です。

松江城は、版籍奉還とともに陸軍省移管、廃城令による天守以外の建物の払い下げ撤去、天守は元藩士、地元有力者による現地保存、松平氏による買戻しの変遷を経て、1927年明治23年松平氏から松江市に寄贈されました。

1935年昭和10年には、国宝保存法により、国宝に指定され、1950年から1955年にかけて修理がおこなわれました。3月にやっと修理が終わったところで8月には文化財保護法により重要文化財に格下げされたの



は、皮肉というか、市民としてはあまり釈  
た。

それでも国宝指定復活の粘り強い運動が  
実を結び、再指定の決め手となった祈禱  
札の発見に至り、2015年7月8日の官  
報公示により、再び国宝となりました。  
1611年の城落成後405年目ということ  
になります。

犬山城、彦根城、姫路城、松本城に次い  
で5番目の国宝天守となりましたが、築城  
年次は松本城よりも4年古いとされています。

と力強い報告がありました。

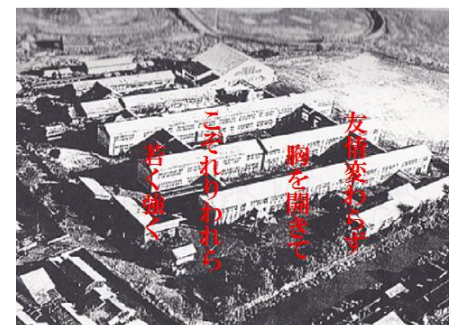
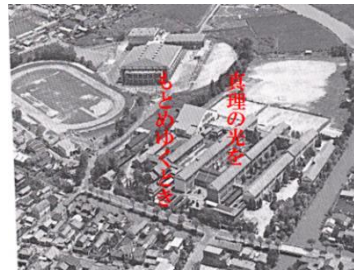
ついで国宝指定を祝う歌が披露されまし  
た。

これは、千鳥城と題し、歌い出しは晩翠  
先生の荒城の月から借用し、春夏秋冬  
に歌いわけ、松江城をめぐる風物をスク  
リーンに映し出して(前段右欄)、廉太郎  
先生のおなじみのメロディで全員で斉唱  
しました。

ついでふたたび懇談、

史上初のお墓百科事典の編纂を目指し  
て全国の墓所を巡っている人、  
ベトナム、タイでいまでもなお技術指導  
やっている人、  
松江関西でのバイオリンの演奏活動  
に活躍する人、  
1年の1/3をスペインで過ごす人から  
は、スコットランドとカタールニア地方の  
独立運動についての解説など、多彩

然としないところでありまし



な近況報告があり、元気づけられました。

そして最後は、山脈うかびてを、川津校舎やまわりの風景とともにスクリーンに映し出し、全員で声高らかに斉唱、東京オリンピック後までもみな元気でこの会を続けることを誓いあって、初秋の日差しを浴びながらの解散となりました。

しかし、2時間余りの会合では語りつくせないことも多く、半数近くの方は、場所を有楽町近くに移動し歌と語りにさらに旧交を深め、それでも飽き足らず、神田の居酒屋で深夜まで飲み語った人もいたそうです、

